

令和 2 年 5 月 30 日現在

機関番号：17501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17452

研究課題名（和文）「読むこと」の授業で想像力を育むための連携的・実践的な理論研究

研究課題名（英文）Collaborative and Practical Theoretical Research for Developing Imagination in the "Reading" Class.

研究代表者

花坂 歩 (HANASAKA, Ayumu)

大分大学・教育学部・准教授

研究者番号：20732358

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、「読書教育に取り組む様々な人材が集う場＝アゴラ（広場）」の構築を目指し、現職教師4名の力を借りて、演劇的手法、少人数学習に特化した想像力を育む「読むこと」の授業開発に取り組んだ。また、大学の公開講座の活用によって地域人材との連携を強化し、音読・朗読・群読の指導内容及び指導技術の精選を図った。特に、授業研究においては、読みの動作化による視覚化、小集団化によって、学習者の思考が多面的多角的に拡張することが確認できた。中でも、演劇的手法による学びの全身化からは多くの示唆が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

主たる成果はアクティブラーニングは演じる者だけに起きるものではないということを明らかにできたことである。それを見ているものにも深い学びを生む。本研究で取り入れた演劇的手法、色彩心理学の知見は子どもたちが体や感性を働かせる学びを好むこと、その過程そのものを楽しむということを顕在化させた。それらをさらに強く生み出すためには、「空間・雰囲気」に着目した教科融合的な考究が不可欠である。そこで、本研究はその最終年度を残し、発展的に解体し、基盤研究(C)（教科融合による豊かな読書空間の創出,19K02735,2019～2022,研究代表者 花坂歩）へと課題を引き継ぐこととなっている。

研究成果の概要（英文）：I aimed to build a "Meeting place for people involved in reading education".

Four elementary school teachers helped with this. We worked on research into "changing understanding into movement" and "small group learning". Our aim was to develop a lesson that stimulates the imagination of child. In addition, I made use of the university's open lectures to strengthen collaboration with reading amateurs in the area. There, I was able to gain some of the good teaching skills of reading. What I find most valuable is activation. Children have found that their bodies can enrich the learning provided by teachers.

研究分野：教科教育学（国語教育）

キーワード：教科教育学 国語科教育 読書教育 地域連携

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、研究代表者は、「読むこと」の授業における「想像」に着目し、その仕組みの解明と向上を図る授業方法について研究していた。

国内においては、比較国語科教育学の研究者たちが米国の研究成果を説き、絵本の学習材価値や活用方法、小集団での読みの授業方法に注目が集まりつつあった。また、それと連動するように、その評価方法も開発されつつあった。教育現場の全国的な動向としては、「単元を貫く言語活動」と称される授業方法が推進され、読むことにおいては「何のために読むのか」という目的意識に基づいた活動的な授業が活発に行われていた。いずれも、「読むこと」の授業をどのように行っていくかという教科内容及び方法論の研究であった。

その一方で、公立図書館等の社会教育の現場でも読書活動は推進されていた。都道府県単位では、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(2002)の閣議決定を受け、図書館を含めた多くの社会教育施設で、出張読み聞かせ、ブックトーク、児童向け図書の充実などの施策がとられつつあった。同時に、「学校図書館法」の改正により、司書教諭の設置(1997)、学校司書の設置(2015)も促され、学校内外の読書教育環境が整備されつつある状況であった。

そうした中で、注目したのが「結びつけ」という連携関係の構築についてである。現状を見ると、特に、学校、地域、保護者の結びつけが弱い。例えば、教師と図書館司書とを結びつけることができれば、司書が有する知識と技術が教師に伝わる。例えば、教師と読み聞かせボランティアを結びつけることができれば、読みの技術、親や子供のニーズが教師に伝わる。そうした結びつけによる恩恵が多様に予感されつつも、関係機関が手を携えることがない状況にあった。

## 2. 研究の目的

そこで本研究では、以下の2点を大きな目的として掲げた。

- (1) 近年の読むことの授業理論の実践的・発展的研究。想像力の育成を目指し、「演劇的手法による動作化」(2016)、「少人数学習による効果」(2017)、「音読・朗読・群読の効果」(2018)の3点を、授業実践を通して考察する。
- (2) 開かれた読書活動を展開するための連携的研究。読書教育に携わる教師、地域人材、社会教育関係者等が交流する「リーディング・アゴラ(読書の広場)」「自然体験施設等で開催する読書教育の場」を構築する。

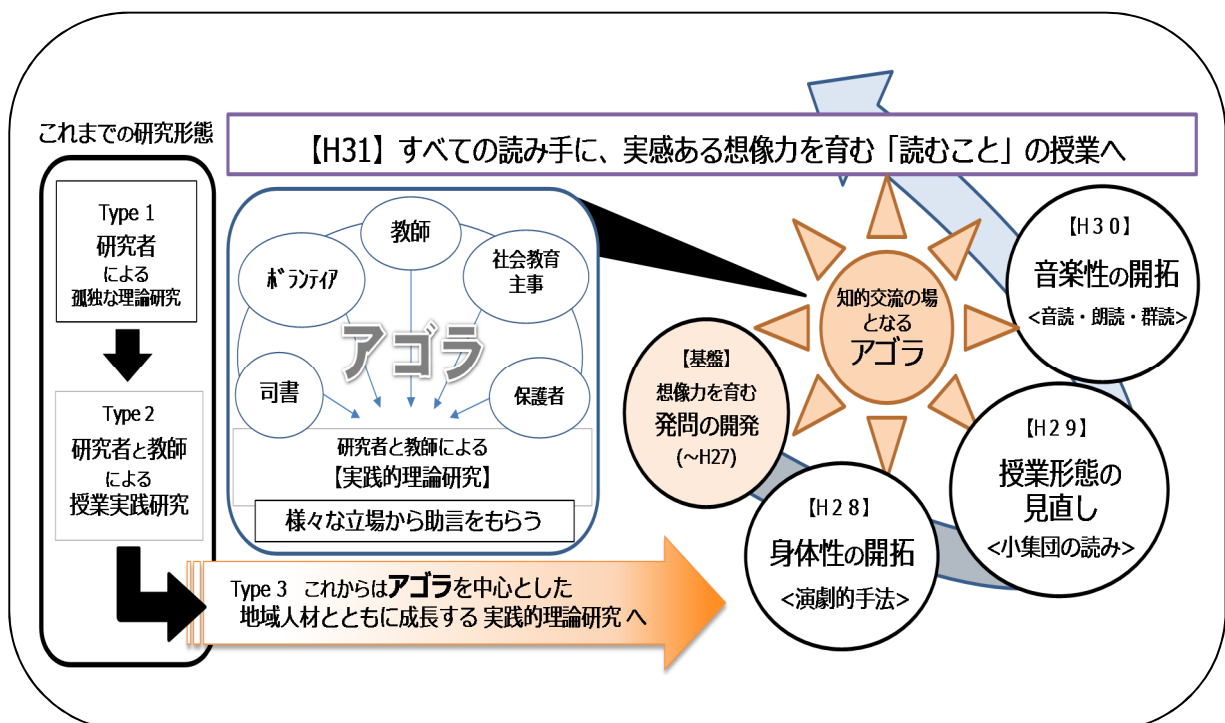


図1 本事業概念図

### 3. 研究の方法

前述の(1)については、教育現場への波及性を重視し、実践検証を基本とした。「演劇的手法による動作化」(2016)、「少人数学習による効果」(2017)については、研究代表者が理論的考察を行い、仮説を立て、小学校教諭の協力を得て、授業として具体化させた。そこで観察された子どもの様子を基に、仮説の実用性・汎用性を高める考察を加え、論文にて発表した。「音読・朗読・群読の効果」(2018)については、大学公開講座を活用して、年間を通じ、複数回にわたって音読・朗読の基礎技術を指導することで、実践知の普及と併せて、指導技術の精選を進めていった。

前述の(2)については、「リーディング・アゴラ」(自然体験施設等で開催する読書教育の場)を構築するために、人材発掘と育成、社会教育関係者等との協議に取り組んできた。特に、人材発掘と育成については、大学公開講座とともに、大分県立図書館から委嘱を受けている「子ども読書推進員」の活動とを連動させながら、市民団体との交流を拡大してきた。

アゴラ参加者	期待される助言の観点
社会教育主事	生涯学習、人間関係作りという観点から
図書館司書	本の選択や活用の仕方という観点から
ボランティア	地域教育の実践者としての経験から
子供	指導を受けているときの様子・感想から
保護者	親の思い・願い・希望という観点から
教師	指導の内容や方法・評価という観点から

研  
究  
申  
請  
者  
と  
研  
究  
協  
力  
者  
に  
よ  
る  
ブ  
ラ  
ッ  
シ  
ュ  
ア  
ッ  
プ

図2 多角的な検証による理論のブラッシュアップ

### 4. 研究成果

#### (1)実践的理論研究について

演劇的手法については、大分市内の2つの小学校において、6年生を対象に、実践を通して研究した(2016年11月)。読みの視覚化・動作化から見出せたことは、演じることはもちろん、演じる人を見ること、その空間を共有することによっても様々な触発が期待できるということである。演劇的手法による全身の学びによって思考が多面的多角的に拡張することが確認できた。少人数学習については、豊後大野市内の小学校において、2学年を対象に、実践を通して研究した(2017年11月)。この実践研究では、子どもの自立性を育むために、学校図書館を場に、学習場所、学習パートナーを自分で決めさせるという学習指示を試みた。そうした自立への促しが、小学校2年生という低学年においても可能であることが示された。また、玖珠町内の小学校においては、2学年を対象に、色彩心理学を援用した感性を育てる小集団授業を実施した(2018年2月)。この実践研究では、テキストから情景や心情を想像させ、それに一番近いと思う色を背景色として画用紙に着色させた。子どもたちが体や感性を働かせる学びを好むこと、その過程そのものを楽しむということを多種多様に確認できた。

#### (2)「リーディング・アゴラ(読書の広場)」の構築について

2017年度は大分大学学術情報拠点(図書館)による一般利用者向けの「大人向けの読み聞かせ会」(11月29日14:50~16:10)に同席し、社会教育関連施設の読書教育活動を体験的に調査した。そこでは、地域の朗読愛好者の多くが自己流の音読発声法にとどまっており、それが聞き手の招き寄せを妨げていることが見えてきた。そこで、2018年度には朗読に関する公開講座を実施(\*1)し、高校生、大学生、主婦、子ども食堂の経営者、司書教諭への指導を通して、心地よく声を出し、音読・朗読することの実践的指導知を積み重ねてきた。

\*1)2018年度大分大学公開講座:「自分の声を『調べ』にするための4つのレッスン ・ 」(5/8・5/22・6/5・6/19、11/12・11/27・12/4・12/18)、「自分の声を好きになるための絵本探しの旅 ・ 」(9/4・9/18・10/2・10/16・10/30、1/22・2/5・2/19・3/5・3/19)

なお、本研究は最終年度(2019年度)を残して、基盤研究(C)(教科融合による豊かな読書空間の創出,19K02735,2019-2022,研究代表者 花坂歩)へと課題を引き継いでいる。研究が進むにつれ、環境要因が読書の「豊かさ」に大きく影響するということが明白になってきた。それを生み出すためには、空間(環境・雰囲気)に着目した多角的な考究が不可欠である。本研究課題(若手研究(B))では研究分担者を加えることができない。研究代表者の、言語の受容・反応に特化した読書行為論・読者反応理論だけで見出される成果には限界がある。そこで、当該研究計画を発展的に解体し、研究分担者とともに、空間性の質的向上の研究に取り組むことになった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 花坂歩	4. 巻 16
2. 論文標題 教室空間に存立する他者及び対話についての考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 153-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大路直輝・花坂歩	4. 巻 15
2. 論文標題 「道徳科」における言葉の学習 - 問題意識のくすぐりと言語化の試み -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 152-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 花坂歩	4. 巻 15
2. 論文標題 間テキスト性概念は授業をどこに導くのか - 高等学校の実践報告の検討とともに -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 花坂歩・熊本大樹・中尾雅宏	4. 巻 43
2. 論文標題 学習材開発のための「言語環境」考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語の研究	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 花坂歩・山根紫野	4. 巻 43
2. 論文標題 「話すこと・聞くこと」におけるリアリティ - 教師に必要な話し合い観の基礎 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語の研究	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花坂歩	4. 巻 696
2. 論文標題 深川明子のイメージ形成論の構築過程	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 解釈	6. 最初と最後の頁 54-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花坂歩	4. 巻 548
2. 論文標題 教師のための「手引き」考 - 「教師」という在り方への拡張 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月刊国語教育研究	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花坂歩・永田誠	4. 巻 38
2. 論文標題 読書コミュニティの創出に向けての基礎的研究-社会教育施設における読書活動推進事例の検討-	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大分大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花坂歩	4. 巻 14
2. 論文標題 読者反応を引き出すための作品分析の具体 三木卓『のらねこ』を題材に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花坂歩	4. 巻 14
2. 論文標題 読みの「深さ」と「豊かさ」についての考察 演劇的手法を検討の材料として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語論集	6. 最初と最後の頁 145-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花坂歩	4. 巻 4
2. 論文標題 読者反応を引き出すための発問開発の具体 三木卓『のらねこ』を題材に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 九州地区国立大学教育系・文系研究論文集	6. 最初と最後の頁 No.21(1-8)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 花坂歩
2. 発表標題 国語科における対話の諸相とその後景
3. 学会等名 釧路国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花坂歩
2. 発表標題 教室空間に存立する他者及び対話についての考察
3. 学会等名 九州国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花坂歩
2. 発表標題 読者反応を引き出すための教材研究の具体 - 『スイミー』を題材に -
3. 学会等名 釧路国語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花坂歩
2. 発表標題 間テキスト性とその発動-高等学校の実践報告の検討とともに-
3. 学会等名 釧路国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 花坂歩
2. 発表標題 読者反応を引き出すための作品分析の具体；三木卓『のらねこ』を題材に
3. 学会等名 釧路国語教育学会定例会兼国語を学ぶ会第68回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 花坂歩
2. 発表標題 深川明子のイメージ形成論の構築過程
3. 学会等名 解釈学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	甲斐 理彩 (KAI Risa)		授業実践者
研究協力者	秋山 郁 (AKIYAMA Kaoru)		授業実践者
研究協力者	渡邊 彩子 (WATANABE Ayako)		授業実践者
研究協力者	梶谷 愛実 (KAJITANI Ayumi)		授業実践者